

平成27年3月期 第70期 業績概要 第3四半期

桂川電機株式会社

当第3四半期連結累計期間(平成26年4月～平成26年12月)におけるわが国経済は、政治主導による経済政策を背景に全体として緩やかな回復基調が続いているものの、消費税増税や原材料等価格の上昇の影響による景気の下振れが懸念されるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。世界経済は、米国経済の回復が継続している反面、欧州経済は景気回復に力強さが見られず、新興国経済は成長率が鈍化、さらに地政学的リスクの台頭により、世界経済全体も先行きに不安定要素を抱えた状況で推移いたしました。

こうした中、当社グループにおきましては、販売面においては、欧州市場の事業収益の改善に向けて販売体制を見直し、北米市場の売上拡大に注力し、国内市場は顧客への取引深耕に努める等の販売活動を展開してまいりました。また、生産面においては、原価低減を進めてまいりました。

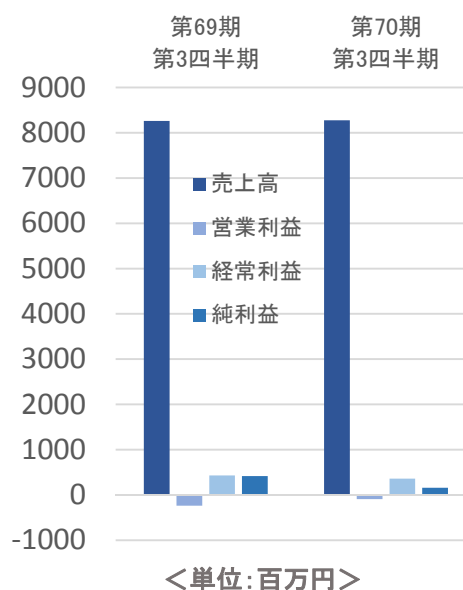
この結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の連結売上高は、82億75百万円(前年同四半期は82億61百万円)と前年同四半期に比べて14百万円の増収となりました。

営業損益は売上原価の低減はできたものの、欧州での販売費及び一般管理費の増加等が響き、92百万円の営業損失(前年同四半期は2億37百万円の損失)、経常利益は為替差益4億30百万円を計上したことにより3億61百万円(前年同四半期は4億32百万円)、当第3四半期純利益は1億60百万円(前年同四半期は4億16百万円)となりました。

<単位:百万円>

項目	第69期 第2四半期	第70期 第2四半期	前年同期 増減額
売上高	8,261	8,275	14
営業利益	△237	△92	145
経常利益	432	361	△71
四半期 純利益	416	160	△256

連結業績概況



事業別の業績

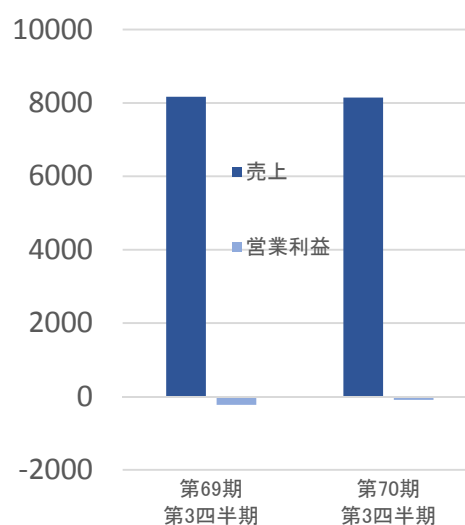
画像情報機器事業

画像情報機器事業の当第3 四半期の連結売上高は81億47百万円(前年同四半期は81億69百万円)となり、営業損失は95百万円(前年同四半期は2億27百万円)となりました。

- ・市場競争が一段と激化する中、売上高は前年並み
- ・北米市場を中心に普及機モデルの伸び
- ・低価格帯モデルは、市場競争激化の中、積極的な需要喚起を図る

<単位:百万円>

	第69期 第3四半期	第70期 第3四半期
売上	8,169	8,147
営業利益	△227	△95



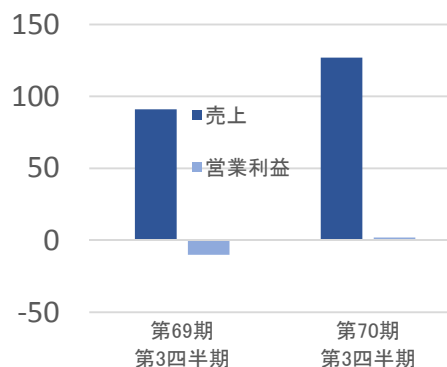
その他事業

その他事業のモーションデバイス事業の当第3四半期の売上高は1億27百万円(前年同四半期は91百万円)となり、営業損益は2百万円の利益(前年同四半期は10百万円の損失)となりました。

- ・モーションデバイス事業の販路拡大を継続
- ・マイクロモータ等を主体に顧客ニーズをキャッチアップした製品開発・品質向上に注力

<単位:百万円>

	第69期 第3四半期	第70期 第3四半期
売上	91	127
営業利益	△10	2



営業外損益

営業外損益は為替差益4億30百万円を計上したことにより4億55百万円の利益となりました。

<単位:百万円>

	第69期 第3四半期	第70期 第3四半期
営業外収益合計	691	490
営業外費用合計	21	35
営業外損益	670	455



※取引通貨レートの数値は、各決算期末日のTTMレート
【出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティング】

通期の予想

日本経済は、緩やかな回復傾向に進むことが期待されますが、海外経済は先行き不透明であり、海外売上比率の大きい当社グループの事業環境は厳しい状況が続くものと見込まれます。

このような状況の下、当社グループでは、さまざまな改革を推進することにより安定した利益確保に取り組んでおりますが、為替による影響も大きいため、現段階におきましては、平成26年5月20発表の予想数値を据え置いております。

なお、今後の動向により業績に影響を及ぼす場合には、開示基準に従って速やかに開示いたします。

<単位:百万円>

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第70期 通期	11,000	130	150	50